さくらやま便り

No.337 号　2022 年（令和 4 年）10 月 15 日

アボガド（2）

エッセイ（4）

板東　洋三郎

意を決した私は、車の流れに沿って、大きな交差点まで歩いた。赤信号で私の眼の前に止まったトラックの後ろから、反射的に荷台に上った。身を伏せて両手でロープをしっかりと握った。実に無謀なことだが、運転手は知ってか知らずか、不審者を乗せてトラックは走り続けた。やっと止まったのは、長野県の佐久市の少し手前だった。トラックを下りた運転手が事務所のような建物に入ったのを確認して、荷台を下りると、心で礼を言いながら私はその場を後にした。

国道からわき道に入りしばらく歩くと、両側に田んぼが広がっていた。さらに先に行くと、作業小屋があった。今までの緊張から解放されたためか、急に疲れを感じた。許可を求めるべき人影もない。小屋に入りそこにあった蓆をひろげて、おにぎりを食べ、横になっているうちに眠ってしまった。

翌朝、人の気配に目を覚ますと、作業服の年配の男性が目の前にいた。地主だと思い私は、非礼を詫び事情を話した。すると、驚いたことに、仕事はあるので少し働いていきなさいと言ってくれた。畔の草刈りなどをして４日も働かせてくれた。５日目の朝、ここでも大きなおにぎり２個と小遣いだと言ってお金もくれた。そして、ご主人が最寄りの駅まで送ってくれた。家族も親切な人たちだった。私はもらったお金で行けるところまで行こうと思い、山梨県の塩山までの切符を買った。

小海線の勾配やカーブの激しさには驚いたが、それ以上に清里辺りから見た八ヶ岳の美しさは印象的だった。そのときは名前さえも知らなかったが、55 年も過ぎた数年前、主峰の赤岳に登頂したときは、なんとなく不思議に思ったものである。

塩山駅に降りた私の眼に飛び込んできたのは、いくつかのブドウ販売の露店であった。私は迷わず最初の店の責任者らしき男性に事情を話した。すると、驚いたことに、彼はブラジルに移住した親戚があると言い、今は人手が必要な時期だから誰かを探してあげようと言ってくれた。しばらく待ってから、片付けを手伝い彼の家に着くと、すぐに電話をかけ始めた。ほどなくして、私に手招きをして彼は言った。「決まったよ。いま迎えに来るって」

こうして私は、翌日から大きなブドウ農家で働き始めた。収獲するブドウは、当時はまだ主流ではなかった「巨峰」であった。その農家で３週間ばかり働かせてもらった私は、台風接近のニュースを耳にしながら、練馬区の訓練所に戻った。いくばくかの「お小遣い」と１箱の巨峰を手にしていた。

その名の通り、お金を持たずに出かけた旅であったが、お金では到底買えない経験をさせてもらった。そして、同様の経験は、その後の人生でも幾度となく繰り返された。

翌日の朝礼で「修了証」を渡された私に、２週間後に横浜港からの出港が確定したことが告げられた。だが、すべきことがまだあった。北海道の両親に会うことだった。こともあろうに私はその時まで、両親にブラジル移住の動機や、経過をほとんど話していなかった。最初にすべきことを最後まで放置するという私の悪癖は、今に始まったことではなかったようだ。

すでに高齢であった両親だったが、快く同意してくれ、励ましてもくれた。上京後幾度か帰省はしていたが、父と話したのはこれが最後になった。

私と私の夢を乗せて、移住船「ブラジル丸」が横浜港の大桟橋を出たのは、その年の台風18号が過ぎ去った翌日の９月２日の夕方であった。

43日の船旅の後に船は目的地のサントス港に着いた。迎えてくれた呼び寄せ人の中村さんと共に、サンパウロ市まで行き、夜行列車で州の奥地にある彼の農場に向かった。到着して２日目の早朝、私は屈強な現地の労働者たちに交じって、コーヒー園にいた。日中の暑さは強烈で、飲む水の量も多く、そのうち鼻血が出て止まらなくなった。そのとき私に、黙って紙包みを差し出してくれた若者がいた。塩だった。それをなめるとやっと鼻血が止まった。仕事は確かにきつくはあったが苦にはならなかった。私には使命があったからである。

しかし、期待の日々は長くは続かなかった。３か月後に到

発行所・〒241-0802　横浜市旭区上川井町 1988 番地　ケアハウス　シャローム桜山　責任者・村本英邦　℡045-922-7330

着した仲間との再会。天井もない板家の私の住まいだが、８人の若者の新しい出発の記念すべき日となるはずであった。だが彼らの雰囲気が重い。たぶん、長旅の疲れだろうと考えていた私の想像と希望は、リーダーの言葉でもろくも、打ち砕かれたのである。（続く）

◆　◆　◆　◆　◆　◆

生活相談員から

ケアハウス主任　遠藤裕之

1　健康診断

11月1日（火）13時30分～15時30分

法令に基づき入居者さまの健康診断を行います。採血・心電図・胸部レントゲン・採尿・医師の問診などを予定しています。詳細が決まりましたら、掲示いたします。

2　インフルエンザ予防接種

11月中に行う予定で調整中です。接種の詳細は、横浜市の「ご案内」をご確認ください。ご希望の方は予診票を記入し、ご提出お願いします。費用免除に該当する方は、必要書類も一緒にご提出下さい。市外に住所がある方は、接種費用が異なります。

予診票・必要書類の締め切りは11月1日です。費用は、接種日にお支払いいただきます。ワクチンについてご不明な点がございましたら、主治医もしくはコールセンターにご相談ください。

※予診票の体温は記入しないでください。

3　避難訓練

11月25日（金）

居室から指定場所への避難訓練を行います。非常持ち出し用の荷物をご準備ください。訓練の詳細が決まりましたら、改めてお知らせします。

4　全館停電

11月26日（土）13時半～16時

設備点検と工事のため、全館停電となります。エレベーターも停止となります。天候不良の際は、12月17日に延期となります。ご協力をお願いいたします。

5　エアコンについて

暖房運転の開始時に、始動し難いことがあります。そのような場合は、強風と最高温度の設定で1時間ほど試運転をしてください。もし試運転後にも不具合があるようでしたら、職員へご相談ください。

6　環境整備のお願い

廊下やラウンジ・玄関周りなどは、みなさんの共有スペースです。掃除や緊急時の避難に支障が出ますので、歩行器など最小限必要なもの以外は居室で管理して頂きますようお願いいたします。共有スペースに置かれている物品類は、施設の判断で処分させていただく場合がございます。ご了承ください。

7　新規入居のお知らせ

このたび307号室に宇佐美美代子さまが入居となりました。みなさま、よろしくお願いいたします。

◆　◆　◆　◆　◆　◆

栄養課から

小川　メルリー

栄養課で働き始めて14年が経ちます。私はフィリピンのマニラ出身で、知人の紹介でシャロームを知りました。働き始めた当初は日本語もよく分からなくて苦労しましたが、夫や家族の協力もあって仕事にも慣れ、今では毎日食事を作ることがとても楽しいです。

日本食は、家族に出す料理しか作ったことがない私ですが、最近では、皆様にお出しする食事を作ることがあります。当然、日本の料理は私の国の料理とは違いますので、覚えるのに時間がかかりました。でもいまではみそ汁なども美味しく作れるようになって、課長からもよく褒められます（笑）。

母国に住む母から教えてもらったフィリピン料理は多くありますが、故郷を離れて想うのは母が作ってくれた「ウータン」というスープです。フィリピンの人はよくスープを飲みます。お米が比較的パサパサしているということもありますが、伝統的なスープの他、各家庭によってアレンジされたスープが多くあります。特に「ウータン」は私の大好物で、野菜がたくさん入っているので、ヘルシーでとても栄養課が高く、食欲がないときや体調が優れない時に飲むと効果が高いと言われています。

日本の味噌汁も具を変えることによって味が微妙に変わりますが、ウータンは出汁にする魚によって味が変わってきます。揚げた魚が一般的ですが、焼いた魚でも大丈夫です。開いた干物や煮干しのような小魚もよく使います。

このように身体に良いわたしの母国料理を、本当は皆様にも味わって頂きたいと思いながら、毎日お料理を作っています。これからも愛情を込めて皆様へのお食事を作り、お出しできるように頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。

１０月の誕生者

１１日　熊田　カヅエ　様

１５日　川瀬　和子　　様

お誕生日、おめでとうございます。お健やかな毎日をお祈り致します。

発行所・〒241-0802　横浜市旭区上川井町 1988 番地　ケアハウス　シャローム桜山　責任者・村本英邦　℡045-922-7330